

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION

# 2011年度(2012年3月期) 第1四半期 決算説明会

2011年7月29日

**セイコーエプソン株式会社**

©SEIKO EPSON CORPORATION 2011. All rights reserved.

## ■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

---

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

## ■ 本説明資料における表示方法

---

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 千円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

## 開示セグメントの変更について

【2011年度から】

---

- ものづくり基盤の再構築・強化を迅速に実行することを狙いとして、「電子デバイス事業セグメント」と「精密機器事業セグメント」を統合し、「デバイス精密機器事業セグメント」とする
- 「中・小型液晶ディスプレイ」のオペレーション終結を受け、2011年度以降発生する損益については「その他」に集約
- 2011年度予想の説明において、前年度を比較対象とする場合は、2010年度のセグメント損益もあわせて補正

2

### ■ 開示セグメントの変更内容

1) 2011年度 第1四半期決算

2) 2011年度 業績予想

## 決算ハイライト（第1四半期決算）



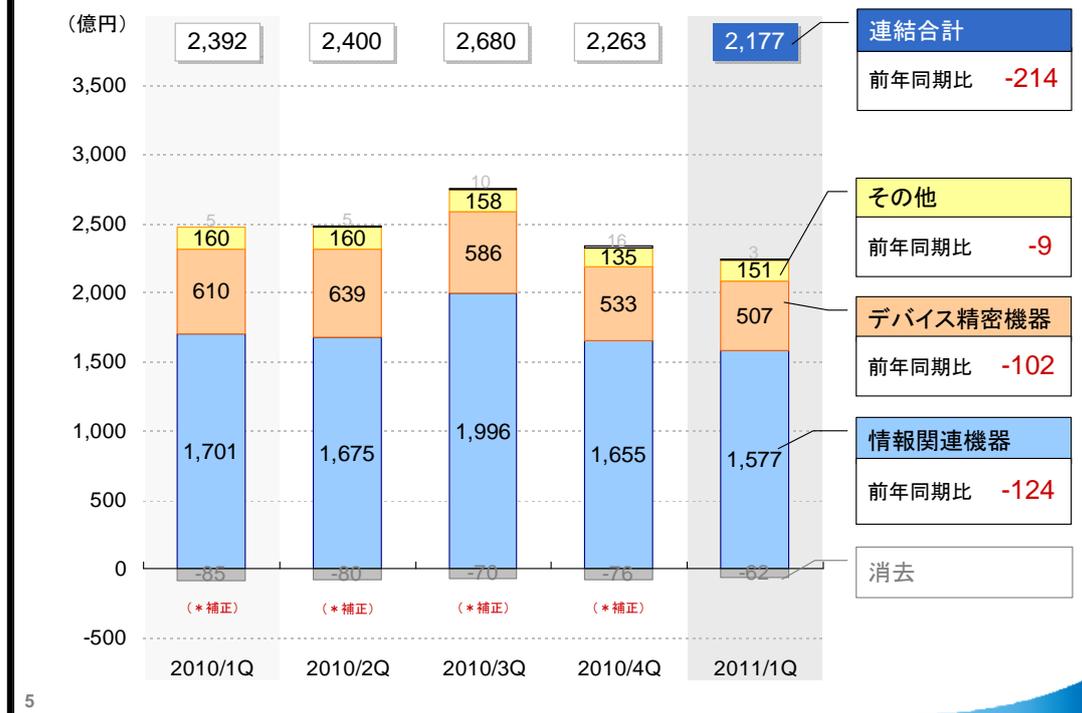
(億円)	2010年度		2011年度		増減	
	1Q実績	%	1Q実績	%	増減額	増減率
売上高	2,392	-	2,177	-	-214	-9.0%
営業利益	107	4.5%	36	1.7%	-71	-66.2%
経常利益	112	4.7%	23	1.1%	-88	-78.7%
税引前利益	107	4.5%	5	0.2%	-101	-95.3%
四半期純利益	79	3.3%	△32	-1.5%	-111	-
EPS	39.76円		△16.13円			
換算 レート	USD	92.01円	81.74円			
	EUR	116.99円	117.40円			

4

### ■2011年度 第1四半期の実績

- 売上高は、前年同期比 9.0% 減収の 2,177億円、  
営業利益が 71億円 減益の 36億円、  
経常利益が 88億円 減益の 23億円、  
四半期純利益が 111億円 減益の32億円の損失。
- 当第1四半期において、東日本大震災による影響として、売上高で約79億円、営業利益で約33億円 のマイナス影響があり、特別損失には17億円を計上。  
前年同期比での円高によるマイナス影響は売上高で約96億円、営業利益で約19億円。
- 当第1四半期は利益水準が低く、国内・海外での利益のアンバランスにより税引後利益がマイナスとなったが、前回予想でお示した上期営業利益70億円に対する進捗としては概ね順調に推移していると認識。情報関連機器はややスローなスタートとなったが、デバイス精密機器を含め、震災からの回復は順調。

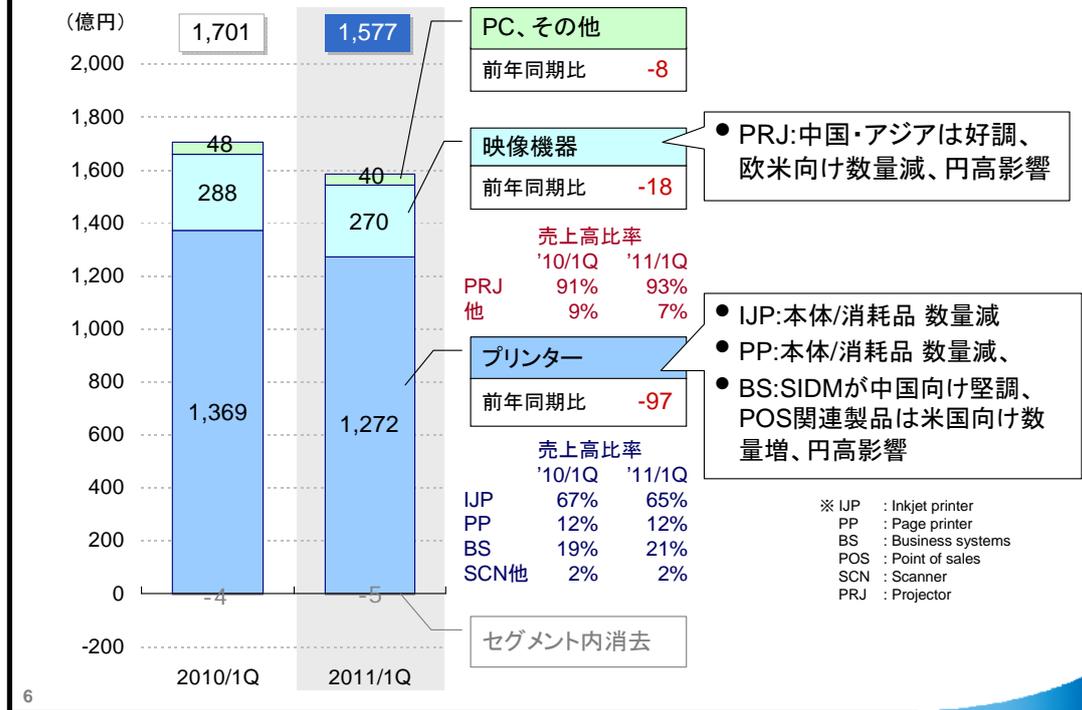
## 四半期売上高推移 ▶ 事業セグメント別



### ■ 事業セグメント別の 四半期 売上高推移

- 情報関連機器 は、前年同期比 124億円の 減収、  
デバイス精密機器 は、前年同期比 102億円の 減収。
- ソニーモバイル向けに「中・小型液晶ディスプレイ」の後工程を受託生産していた、中国の当社連結子会社「蘇州エプソン」は、2011年7月1日付けでソニーグループへの譲渡が完了。
- 重要な経営課題であった「中・小型液晶ディスプレイ事業」の構造改革は完了、第1四半期までその他セグメントに含まれていた同事業の売上高は、第2四半期以降なくなる。

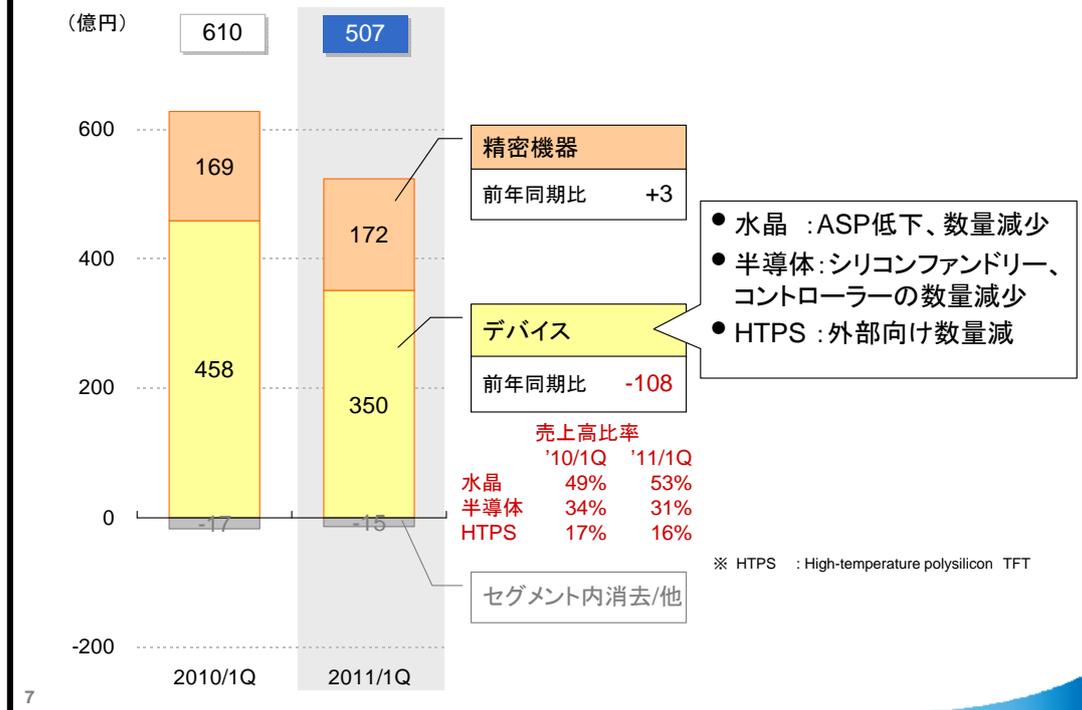
## 四半期売上高比較 ▶ 情報関連機器セグメント



### ■ 情報関連機器事業セグメントの 第1四半期 売上高

- プリンター事業は、前年同期比 97億円の減収。
- インクジェットプリンターは、本体ならびに消耗品の数量減により減収。  
 本体の地域別市場環境は、震災による影響が懸念された日本市場も徐々に回復をしてきており、米州市場、欧州市場とともに ほぼ前年並みの水準。  
 そうした中、当社は日本市場において継続的なプロモーション活動を推進し、ほぼ前年並みの数量を確保。一方、海外市場においては震災の影響により一部 部品調達の支障による生産への制約が生じていることから、プロモーション活動を抑制したことに加え、競合他社の本体価格の値下げの影響もあり、米州、欧州、アジアでは数量減。消耗品は、本体の販売数量減の影響により数量減。
- ページプリンターは、震災影響による製品の供給不足や、欧州における入札案件の第2四半期以降への期ズレにより、本体と消耗品の数量が下回ったことなどで減収。
- ビジネスシステムは、円高の影響を受けたものの、POS関連製品が米国向けで数量増となったことや、SIDMが 中国向けを中心に堅調だったことにより増収。
- 映像機器は、プロジェクターが欧米の教育市場向けが減少したものの、中国・アジア向けは全般的に堅調だったことから、ほぼ前年並みの数量となったが、為替の影響により、前年同期比18億円の減収。

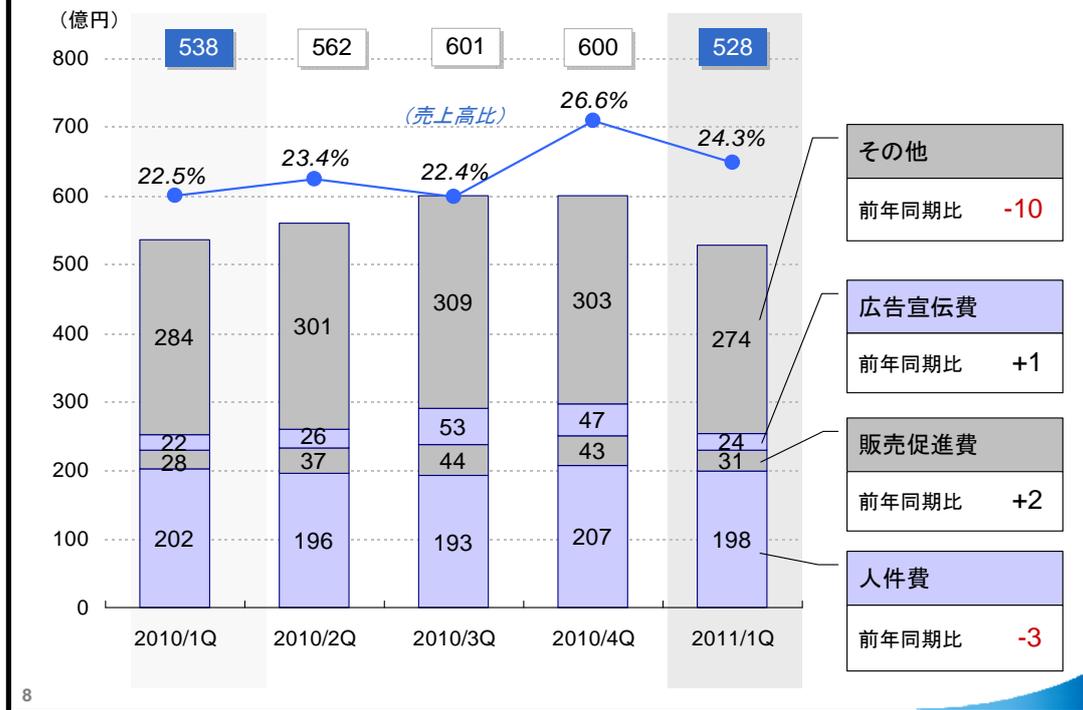
## 四半期売上高比較 ▶ デバイス精密機器セグメント



### ■ デバイス精密機器事業セグメントの前年同期比較

- 震災により、エプソングループにおいても東北エリアにある4ヶ所の生産拠点が被災し、デバイスを中心に生産への直接的な影響を受けた。現在もエプソントコム福島事業所は閉鎖中であるものの、他のデバイスの生産拠点については生産を再開。
- 水晶デバイスは、ASPの低下ならびに震災の影響による需要の減少により減収。
- 半導体は、停電による生産の一時停止の影響で、シリコンファンドリーの数量が減少したことに加え、コントローラーの数量減により減収。
- プロジェクター向けのHTPSは、外部顧客向けが数量減となったことにより減収。

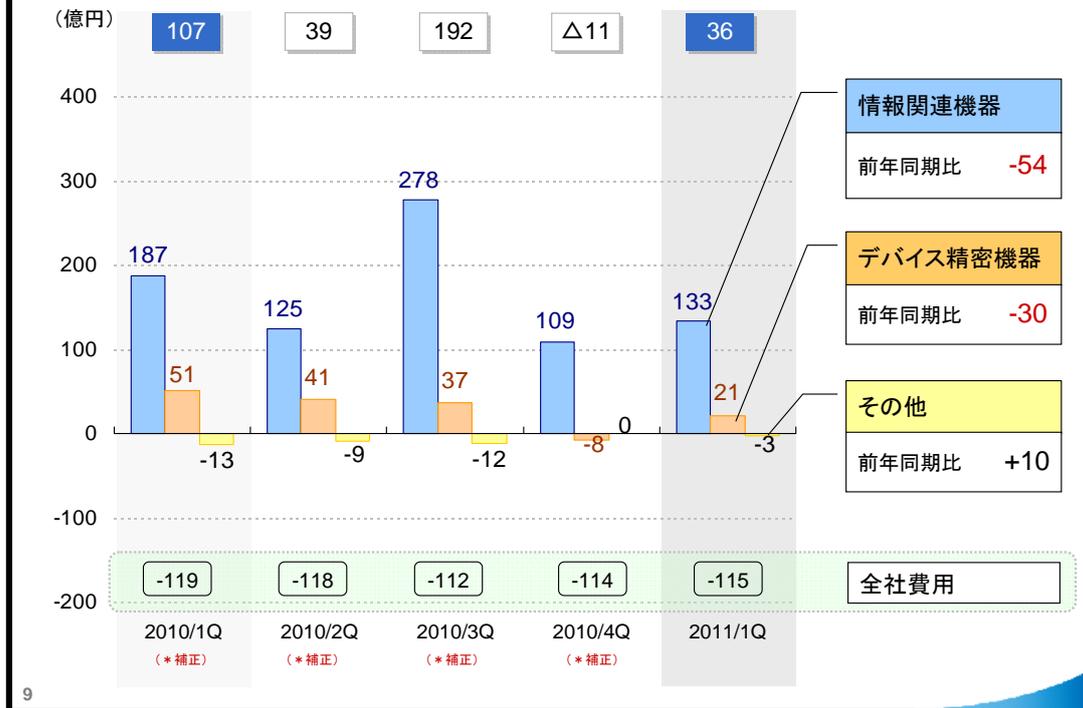
## 四半期販売費及び一般管理費推移



### ■販売費及び一般管理費の四半期推移

- 費用の効率的な執行に努めたことなどにより、ほぼ前年並み。

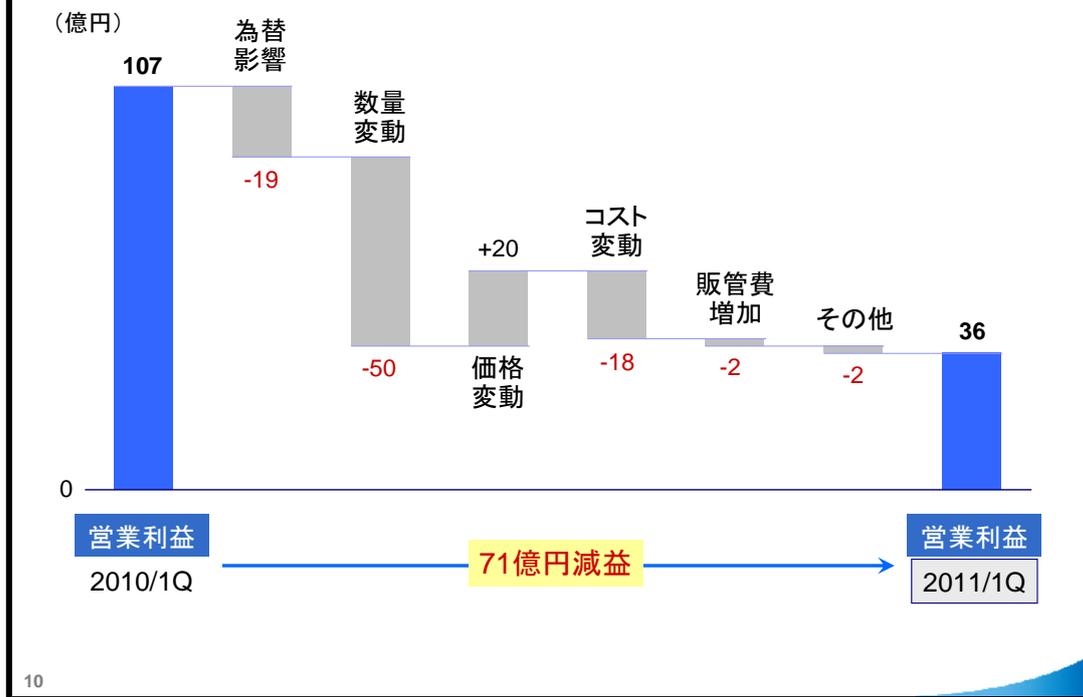
## 四半期営業利益推移 ▶ 事業セグメント別



### ■ 事業セグメント別の 四半期営業利益推移

- 情報関連機器は、前年同期比 54億円減益の 133億円。
- インクジェットプリンターは、消耗品の数量が減少したことなどにより減益。
- ビジネスシステムは、増収により増益。  
プロジェクターと ページプリンターは、減収により減益。
- デバイス精密機器は、前年同期比 30億円減益の 21億円。
- 水晶デバイスならびに半導体は、減収となったことに加え、生産ラインの稼働率低下により減益。プロジェクター向けの HTPSは、減収により減益。

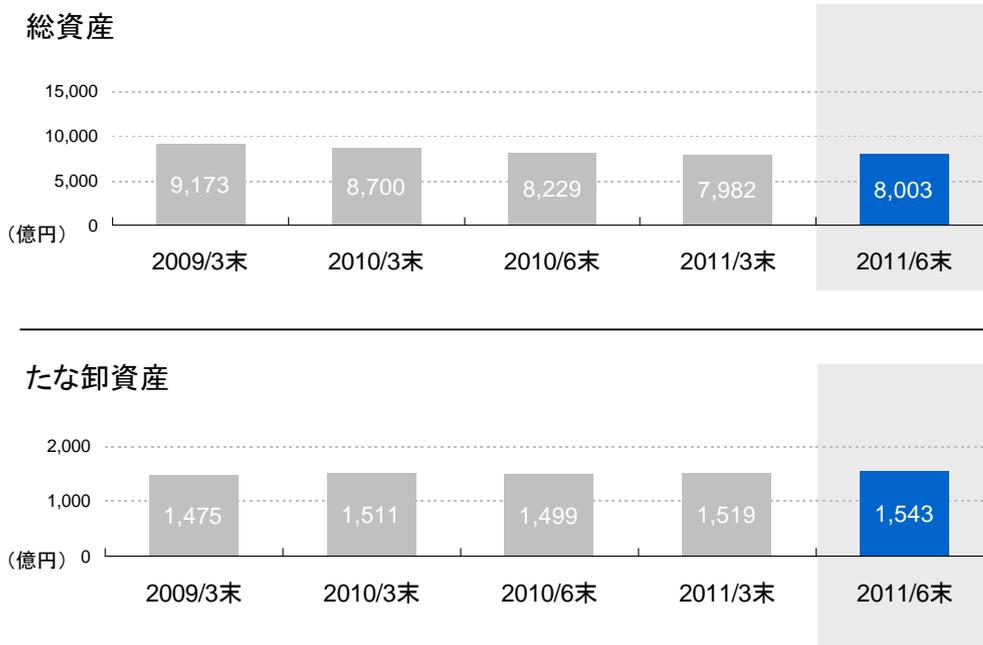
## 営業利益増減要因分析



### ■ 営業利益の前年同期比の要因分解

- 2010年度 第1四半期の営業利益107億円 に対し、価格変動による 増益要因があったが、数量変動、為替変動、コスト変動の減益要因により、当四半期営業利益は 36億円。

## 貸借対照表主要項目推移



11

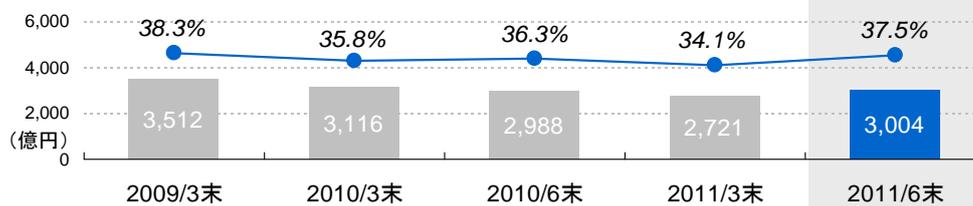
### ■ 貸借対照表の主要科目

- 総資産は、設備投資の精査、厳選による有形固定資産の減少に対し、たな卸資産の増加による流動資産の増加で20億円増加。

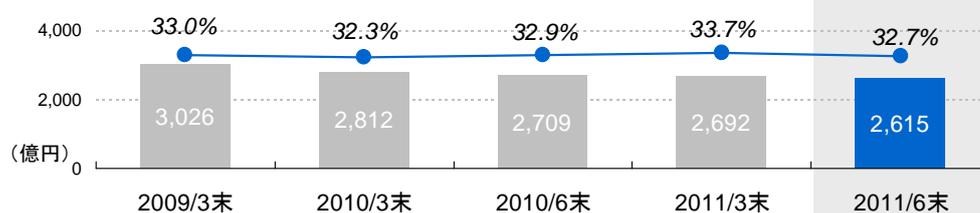
## 貸借対照表主要項目推移



### 有利子負債・有利子負債依存度



### 自己資本・自己資本比率



\*有利子負債:リース負債を含む  
\*自己資本:純資産合計-少数株主持分

12

### ■貸借対照表の主要科目

- 有利子負債は、6月の社債発行にともない前期末に比べて 282億円増加、総資産の有利子負債依存度は 37.5%。  
ネット有利子負債は、766億円。
- 自己資本は、第1四半期業績と為替換算の影響などにより 77億円減少し、自己資本比率は 32.7%。

1) 2011年度 第1四半期決算

2) 2011年度 業績予想

13

■ 2011年度の業績予想

## 2011年度業績予想 ▶ 前期同期比



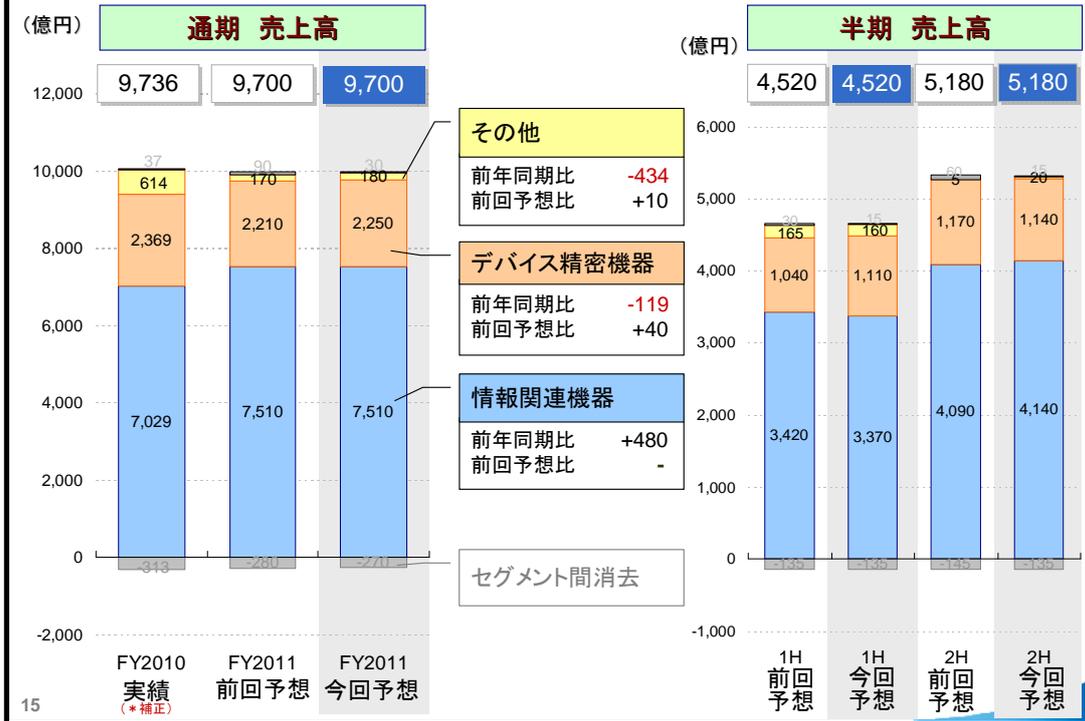
(億円)	2010年度		2011年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	前回予想	%	今回予想	%	前期実績比	前回予想比
売上高	9,736	-	9,700	-	9,700	-	-36 -0.4%	-
営業利益	327	3.4%	430	4.4%	430	4.4%	+102 +31.5%	-
経常利益	311	3.2%	400	4.1%	400	4.1%	+88 +28.3%	-
税引前利益	153	1.6%	300	3.1%	300	3.1%	+146 +95.0%	-
当期純利益	102	1.1%	170	1.8%	170	1.8%	+67 +66.0%	-
EPS	51.25 円		85.09 円		85.09 円			
換算 レート	USD	85.72 円	80.00 円		80.00 円		2011年度 第2四半期以降の 予想前提レート USD: 80.00円 EUR: 110.00円	
	EUR	113.12 円	115.00 円		112.00 円			

14

### ■ 2011年度の業績予想

- 第1四半期の実績 ならびに各セグメントの今後の見通しを踏まえ、第2四半期以降の為替前提を、USDは引き続き80円、ユーロについては110円に変更し、セグメント別の半期ならびに年間の損益を見直した上で、全社の半期ならびに通期予想は前回予想を据え置き。
- 通期業績への震災影響としては、前回4月28日の予想と比較すると、上期を中心に情報関連機器ではマイナス影響が増加するものの、デバイス精密機器では減少を見込んでおり、全社合計では概ね前回予想と同水準の売上高で約320億円、営業利益で約130億円のマイナス影響を見込む。
- 震災の影響や、為替の変動、欧州を中心とする景気動向が不安定なことなど、下期に向け、不透明な要素が点在しているが、長期ビジョン「SE15」達成のための成長軌道の確立に向け、引き続き今期目標の達成に取り組む。
- なお、今期の配当予想については、4月28日の前回決算発表時点では業績見直しにおける震災の影響が不透明であることを考慮して未定としたが、今回実施した最新の業績予想において2011年度の業績が、前年に比べ増益の見通しであることが改めて確認できたことから、1株あたり年間6円の増配となる中間13円、期末13円の年間26円を予定。

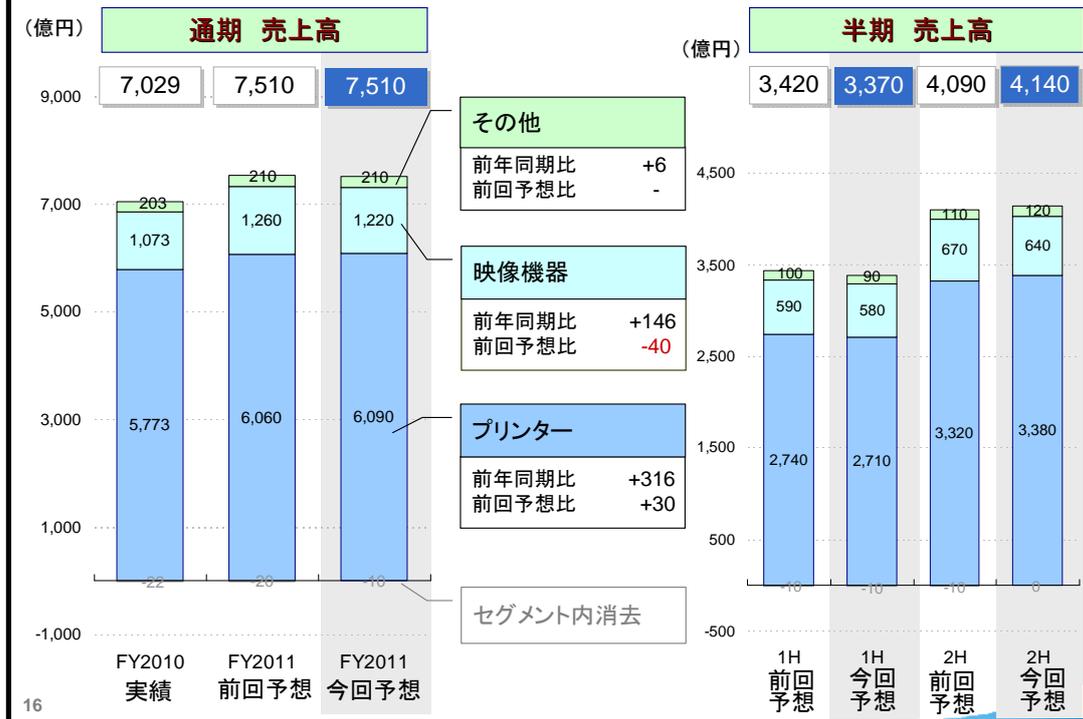
## 2011年度業績予想(売上高)▶事業セグメント別



### ■事業セグメント別の売上高の予想、ならびに上期/下期別の内訳

- 情報関連機器、デバイス精密機器ともに上期 / 下期の予想を修正。

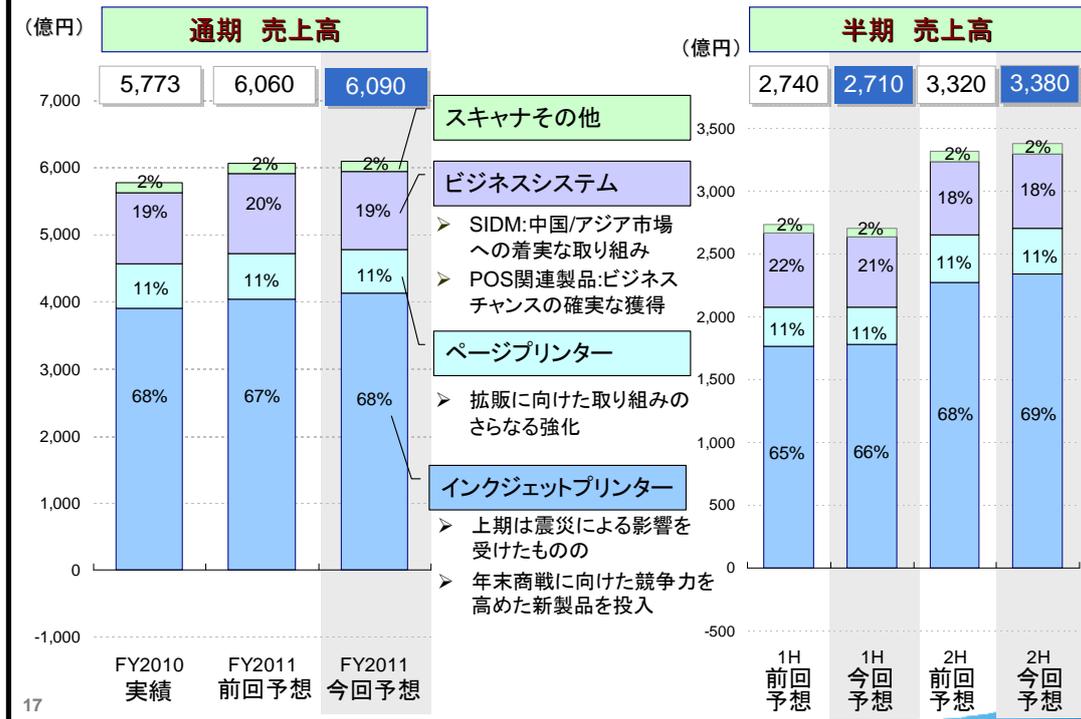
## 事業別売上高予想 ▶情報関連機器セグメント



### ■情報関連機器事業セグメントの事業部門別売上高の内訳

- 映像機器事業は、プロジェクター市場が、足元では中国・アジア市場を中心に堅調に推移、ワールドワイドでは引き続き10%程度の数量成長を見込む。第2四半期以降、競争力を高め、お客様のご要望にあった製品ラインナップを強化することで、市場成長を上まわる、20%以上の数量成長を目指す。

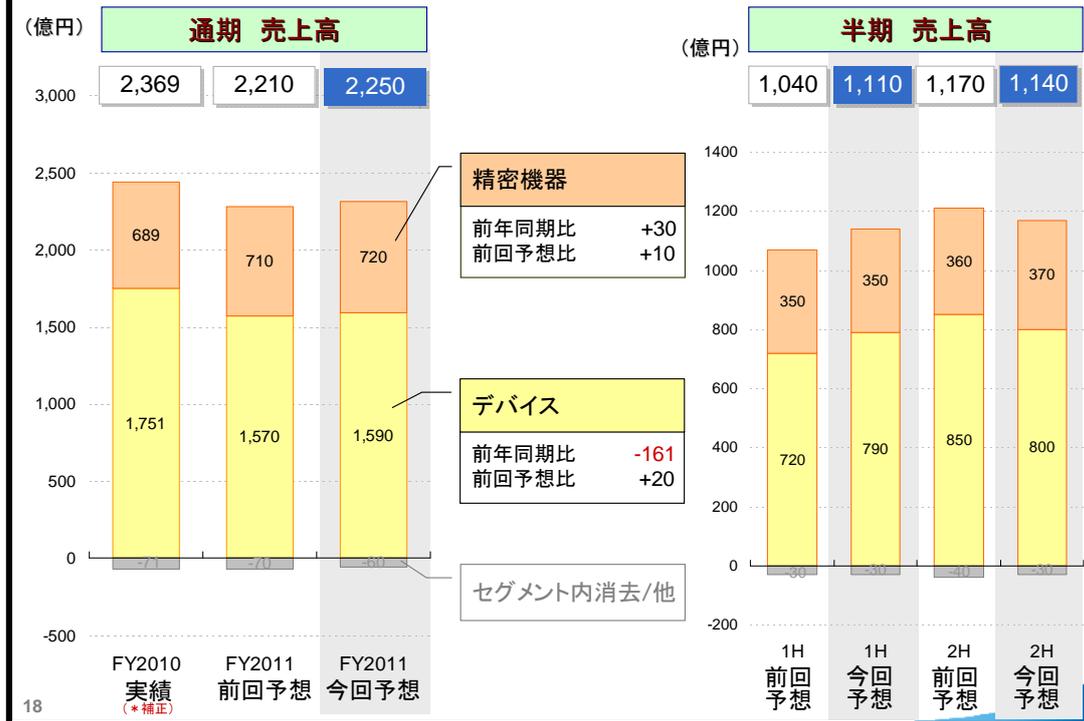
## 事業別売上高予想 ▶ プリンター事業



### ■ プリンター事業の製品別売上高予想

- **インクジェットプリンター**は、震災影響による生産面の制約により、第1四半期は販売面においての出遅れから、今回 販売数量の前提を見直す。  
 前回予想では、2010年度の販売実績1,530万台に対して2%程度の数量増を計画していたが、今回予想では2010年度に比べて2%程度の数量減少を想定。一方で、従来の想定どおり、8月後半には部品調達における制約がなくなり、フル生産の状態に戻ることから、年末の商戦期に向け競争力を高めた新製品を予定どおり投入し、ラインナップを充実させてグローバルに積極的な販売活動を行う。
- **ページプリンター**は、小型・低消費電力など、特徴のある新製品の投入により、拡販への取り組みを強化。
- **ビジネスシステム**は、引き続き 中国、アジア諸国で堅調に推移する徴税需要を確実に取り込むとともに、POS用プリンターのラインナップ拡充により、着実な収益成長を目指す。

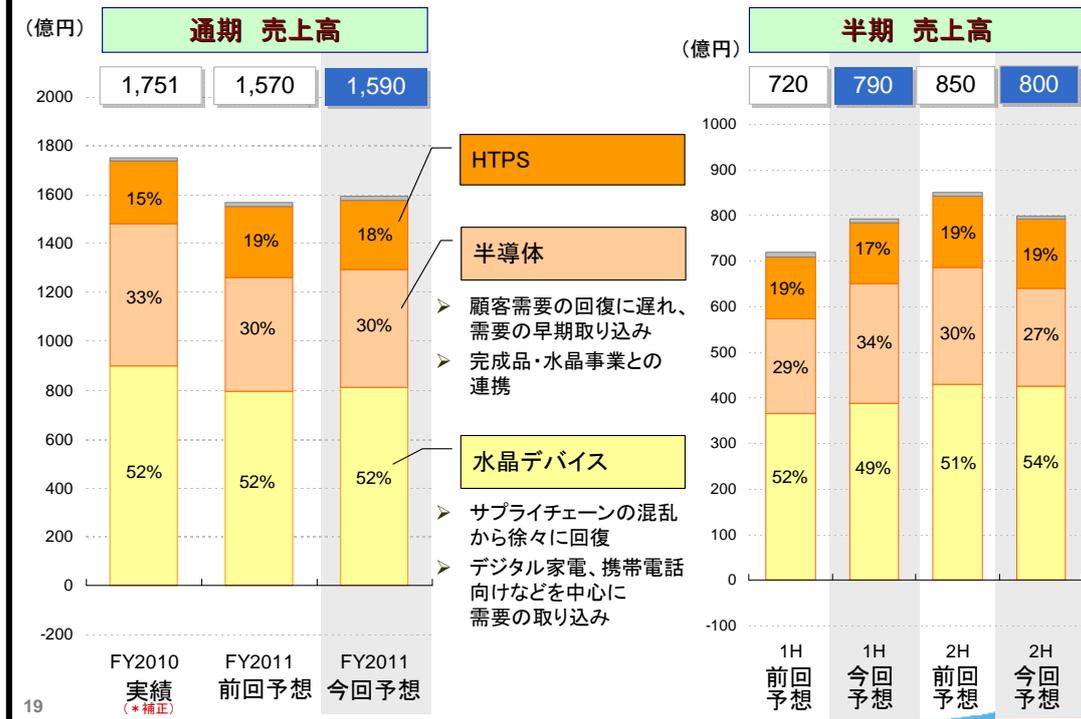
## 事業別売上高予想 ▶ デバイス精密機器セグメント



### ■ デバイス精密機器セグメントの事業部門別売上高の内訳

- 精密機器は、前回予想並み。

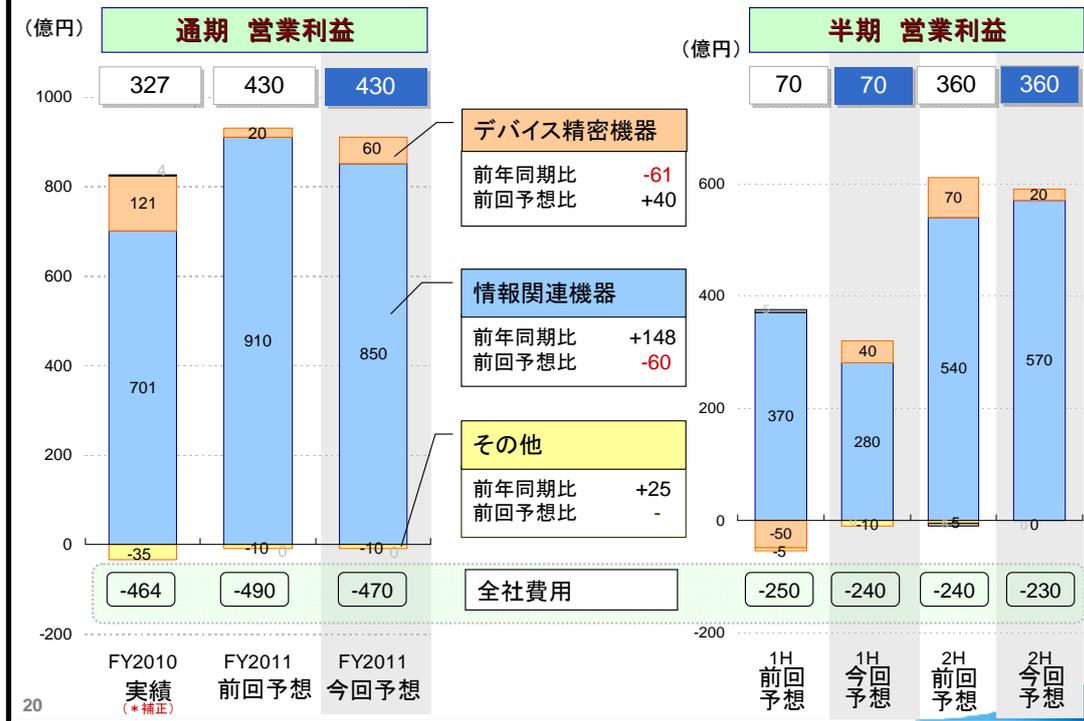
## 事業別売上高予想 ▶ デバイス事業



### ■ デバイス事業の製品別売上高予想

- 水晶デバイスは、第1四半期は取引先の生産数量減少の影響もあり弱含みだったが、第2四半期以降は徐々に回復する見込み。今後も増加が期待されるデジタル家電や 携帯機器向けを中心に需要を取り込む。
- 一方、半導体は、下期において震災影響によるシリコンファクトリーなどの顧客需要の回復に遅れが見込まれる。引き続き、少しでも多くの需要の取り込みを行い、震災影響からの早期回復を目指す。同時に、中期経営計画の基本方針にのっとり、社内の完成品・水晶事業との連携の強化を進める。
- HTPSについては、引き続き、社内向けのプロジェクターの需要に応える。

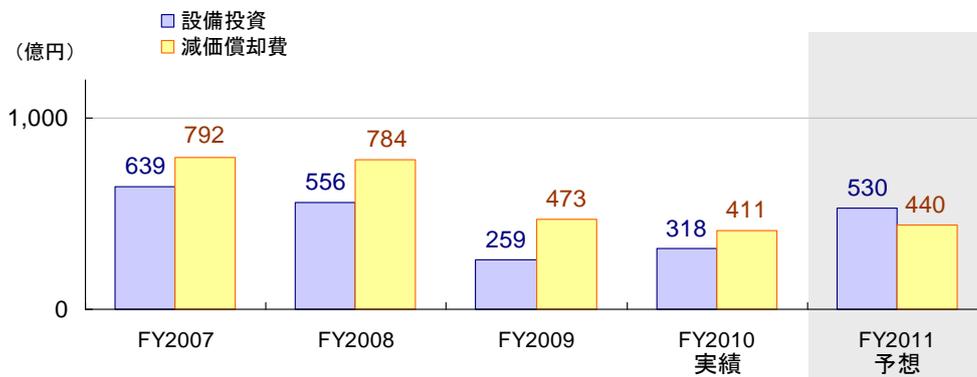
## 2011年度業績予想(営業利益)▶事業セグメント別



### ■事業セグメント別の営業利益の予想、ならびに上期/下期別の内訳

- 情報関連機器は、上期は第1四半期の出遅れもあり下方修正、下期は売上高の上方修正にともない営業利益も上方修正。当初計画どおり、インクジェットプリンターにおいて合理化設計を実現した新しいプラットフォームの投入によるコストダウン効果を見込む。
- デバイス精密機器は固定費削減に加え、水晶デバイスにおいて第1四半期は価格低下の抑制があったこと、半導体において震災前に製造した在庫で顧客の需要に対応できたことにより、上期は前回予想を上方修正。下期は、水晶デバイスにおいて顧客需要が回復するものの価格低下が見込まれること、半導体において顧客需要の戻りが想定より遅れていることから、前回予想を下回る見通し。

## 設備投資・減価償却費予想



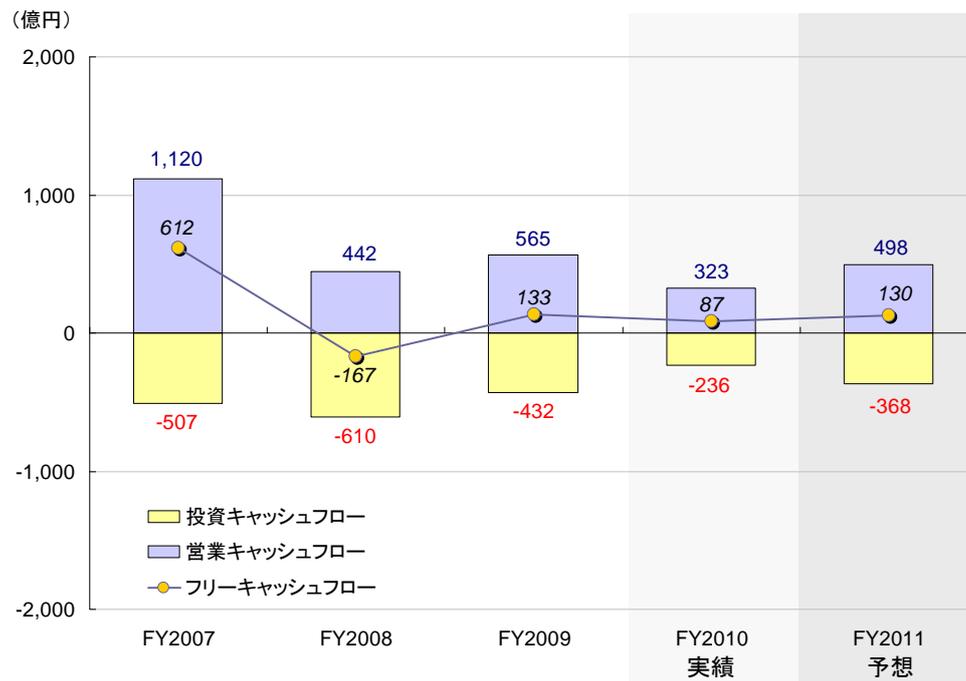
<セグメント別内訳>	FY2010実績		FY2011予想	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
情報関連機器	178	217	300	240
デバイス精密機器	110	132	140	150
その他・調整額	29	62	90	50

21

### ■ 設備投資と減価償却費

- 前回予想から変更なし。

## フリーキャッシュフロー予想

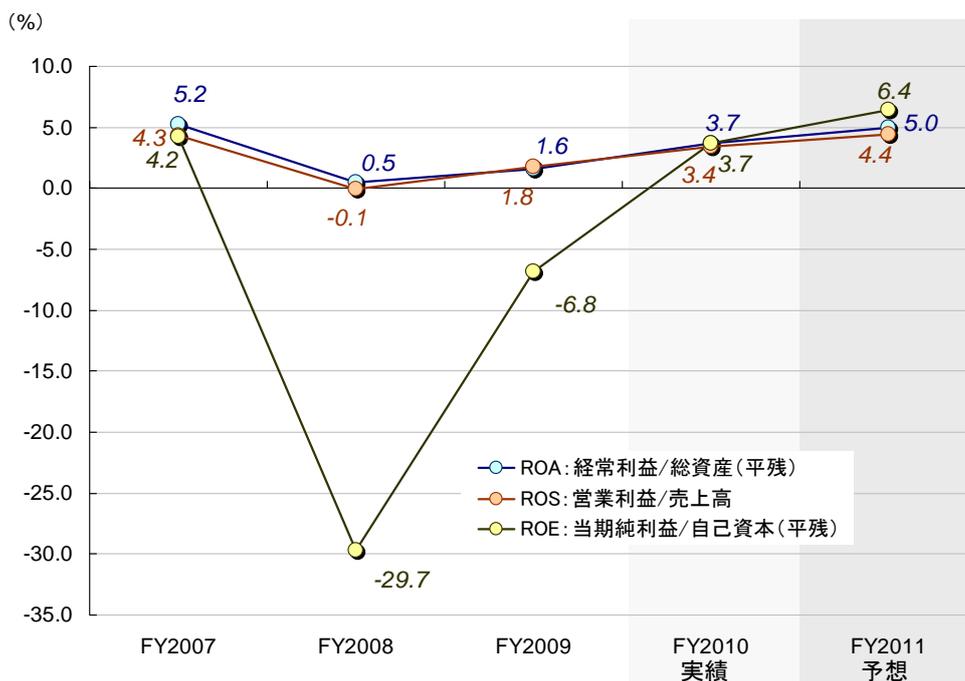


22

### ■ キャッシュフローの予想

➤ 前回予想から変更なし。

## 主な経営指標の推移



23

### ■ 以上の業績予想に基づく、主な経営指標

ROSは 4.4 %、(営業利益率)

ROAは 5.0 %

ROEは 6.4 %

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION